

復活の主日（A年主日の福音を中心とする「霊的な読書」）

（一）聖書朗読

ヨハネ 20：1-9

週の初めに日、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリアは、墓に石が取りのけてあるのを見に行った。そこで、シモン・ペトロとヨハネのところへ走って告げた。彼らは墓に入り、亜麻布が置いてあるのを見た。ヨハネは見て、信じた。しかし、イエスが必ず死者の中から復活されることになっているという聖書の言葉を二人はまだ理解していなかったのである。

（二）カテキズムの響き（カトリック教会のカテキズムの番号 # 638-642、647、1229； YOUCAT #106 - 108)

キリストの復活の神秘は歴史的な出来事で、新約聖書に記されている。パウロの証しは、復活に関する生きた伝承のことを話しています。さらに、イエスの復活の出来事は超越的な出来事です。空の墓のしるしと使徒たちが復活したキリストと出会った事実とによって確認される歴史的出来事であるキリストの復活は、相変わらず歴史を超越し、凌駕するものとして、信仰の神秘の核心を成しています。そのために、復活したキリストが、世ではなく、弟子たちにご自分を現されます。彼らは、ご自分と一緒にガリラヤからエルサレムにいる選ばれた証人です。

事実上、キリストの過ぎ越しの出来事の中で、弟子にとって、空の墓というしるしを発見したことは、イエスの復活を認めるに至る第一歩でした。まず、聖なる婦人たちは、安息日になるので金曜日の夕方に急いで葬られたイエスの遺体に香油を塗ろうとして墓に参り、復活者に最初に出会った人たちです。こうして、婦人たちは使徒たちにキリストの復活を伝える最初の使者となりました。兄弟たちの信仰を強めるように命じられていたペトロは、復活した方に他の弟子たちよりも先に会います。イエスが愛しておられた弟子は、自分で墓に入り、亜麻布が置いてあるのを見て、信じたと伝えています。弟子たちは空の墓のありさまを見て、イエスの体がないのは人間の仕業ではないこと、また、イエスはラザロの場合のように、この世の生活に戻ったにすぎないのではないことを確認したのです。その後、イエスは十二人の使徒たちに姿を現されました。そして、共同体は一同にペトロの証言に基づいて、「本当に主は復活して、シモンに現された」と叫ぶのです。イエスの復活後の日々に起こった一つ一つの出来事は、使徒たち、とくにペトロを復活の朝に始まった新しい時代の建設作業に参加させていくことになります。パウロは、ヤコブとすべての使徒たち以外にも、イエスが同時に五百人以上に現れた、と明確に述べています。キリストの死と復活の過ぎ越しの神秘は、使徒時代からいくつかの段階を踏む入信過程によって、キリスト者に与らせることができます。これは、神の御言葉の告知、回心を伴う福音の受け入れ、信仰宣言、洗礼、聖霊の注ぎ、聖体拝領です。これによって、自分の罪の死に、聖なる三位一体の命に入るようになることが実現されます。

（三）カテキズムの学び（『コンペンディウム』カトリック・カテキズム要約の番号）

#126-127 キリストの死と復活という信仰の核心とは、キリスト者には何の意味ですか。
過ぎ越しの証しについて、生活の中でどのように体験し、実現できますか。

最後の祈り：

「二ケア・コンスタンチノーブル信条」によるキリストを信じる部分
『カトリック・カテキズム要約』52頁